

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙）

## 羽島市の結果と今後の指導について

### ◇質問紙調査より

#### 1 子どもたち自身のことについて

- 「いじめは、どんな理由があってもいけない。」と意識している子どもの割合が高い。
- 児童生徒は、困りごとなどは身近で相談しやすい人に話すことで、一人で抱え込まずに解決していこうとする意識が高い。
- 理科の学習で、学ぶことの意義や意味を実感しながら主体的に学ぼうとする意識の高さが見られる。
- △失敗を恐れなくて挑戦することや、仲間とともに豊かな生活をつくりだしていこうとする部分に課題がある。
- △国語の学習においては、昨年度に引き続き、興味・関心を高めていくことに課題がある。

##### 〈今後に向けて〉

- ・生活面では、児童生徒が、自分たちで計画し、行動したことが、仲間とのよりよい生活をつくり出していることが実感できるよう、児童生徒が主体となる活動を工夫し、自己肯定感を味わえるようにしていきたい。
- ・学習面では、児童生徒が、学んだ知識が課題の解決に結びつき、「わかった」「できた」を実感できるようにしたり、学んだことと身近な生活とのつながりから、学ぶことの大切さを実感することができるようにしたりして、児童生徒の主体性を育む授業改善を行っていく必要がある。

#### 2 子どもたちと地域とのかかわりについて

- 各校で、地域の人材を生かし、防災士を招いた訓練や、オンラインを活用した職業講話など、児童生徒が地域とのつながりから、自らの生き方を考える機会が工夫された。
- △昨年度に引き続き、地域の行事に参加していると回答する児童生徒の値は低いが、これまでに学校や地域との連携・協力を図り

ながら、積極的に地域の行事に児童生徒の参加を促してきたこともあり、地域とのかかわりを大切にしていこうとする意識は高いものがある。

##### 〈今後に向けて〉

- ・ 今後は、地域と家庭、学校がより一層連携し「児童生徒が主役となる」活動の実施を実施していきたい。
- ・ 児童会生徒会が企画する学校行事やボランティア活動を積極的に実施したり、オンラインを活用して地域の文化や伝統を学ぶ機会を設けたりして、児童生徒が社会にかかわることへの興味をもち、自ら考え、行動していくことに喜びを感じていけるとよい。

#### 3 学校の学習での ICT 機器の活用について

- 児童生徒は、授業で ICT 機器を活用する機会は多くあり、「勉強の役に立つ」と思っている。
- ICT 機器は、学習のために当たり前を活用するものであるという意識が高い。
- △意見交換や発表の場面での活用は、調べる場面に比べると少ない。

##### 〈今後に向けて〉

- ・ 「個別最適な学び」の実現に向け、従来型の一斉指導の見直しを図り、主体的に学び取る喜びを実感していけるような授業にしていく必要がある。その際に有効に活用できるものが ICT 機器であるため、その活用方法については、教科の特色を考えながら工夫・改善を継続させたい。
- ・ ICT 機器の活用が、児童生徒の「主体的で対話的な深い学び」につながっているのかを検証し、学習でのより有効な活用の仕方を考えたい。